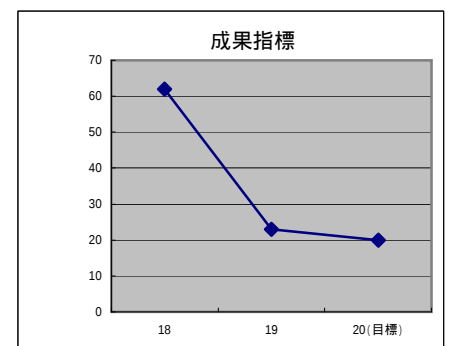
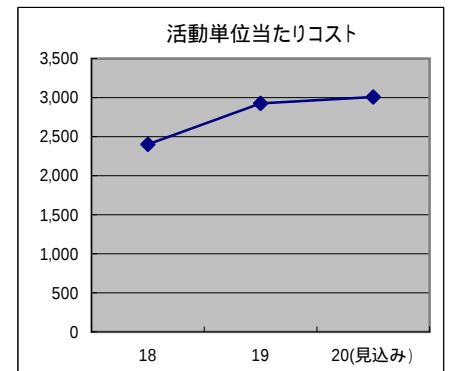


事務事業名		石川クリーン作戦事業		予算科目	会計	1	一般会計	
					款	4	衛生費	
					項	1	保健衛生費	
					目	7	環境美化対策費	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	1	安全・安心、快適で住みやすいまち		事業	4	クリーン作戦開催	
	施策(節)	5	環境美化		作成部署 生活環境部環境衛生課			
	施策の方向	(3)	環境美化活動の推進と美化意識の向上		連絡先 072 - 958 - 1111 内線 2830			
関連する計画等				羽曳野市生活排水対策推進計画				
事業の目的								
対象(誰を・何を)								
石川(河川敷)								
意図(どういう状態にしたいのか)								
漂着ゴミ等を回収し、潤いのある水辺空間とする。								
事業の内容								
・石川中・上流域の3市(河内長野市・富田林市・羽曳野市)が、河川愛護のため流域住民と協力し、毎年3月第一日曜に、流域の投棄ゴミや漂着ゴミを一斉に清掃する。								
・回収ゴミは河川管理者が処理する。								
・大和川流域の一斉清掃と同日実施している。(大和川水質改善啓発事業でもある)								
根拠法令等								
事業開始時期 ☒ 昭和 ☐ 平成 63 年 月開始 ☐ 明確にはわからない 終了年度 平成 年度								
事業開始時からの状況変化 当初、事務局窓口は自治振興課(現 市民協働ふれあい課)であったが、平成12年以降移管された。								
市民や議会の要望								
実施手法 ☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()								
委託先		☐ 外郭団体委託	名称	委託内容				
		☐ 民間委託						

区 分		18年度	19年度	20年度
		(実績)	(実績)	(見込み)
事業費【1】 (千円)		556	322	544
人件費【2】 (千円)		6,558	8,490	8,490
職員数	正規職員	0.77 人	1.00 人	1.00 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.05 人	0.05 人	0.05 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		7,114	8,812	9,034
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	7,114	8,812	9,034
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		18年度	19年度	20年度(目標)
参加人数 人		2,965	3,015	3,000
開催数 回		1	1	1
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】)		2,399 円	2,923 円	3,011 円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		59 円	73 円	75 円



成果指標	指標名		指標設定の考え方		平成18年度	平成19年度	平成20年度
	式)	ゴミ収集量(t)	ゴミ収集量が減ることが河川水質の改善につながる。	目標	64	30	達成率(%)
				実績	62	23	76.7%
	式)			目標			達成率(%)

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	よりよい河川環境づくりを進めるため、市が主体となつて行う必要がある。
				○				○			

視点	分析のためのチェック点			分析・評価の説明		
	はい	いいえ	該当なし			
妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	河川愛護精神が浸透すれば、河川水質の改善にも貢献できると共に、環境美化に役立っている。また、石川は水道水源であり、不法投棄による河川水汚濁は人の健康にも関わる。	
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐		
	社会情勢の変化に対応している	☐	☐	☒		
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐		
	国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐		
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐		
	緊急性が認められる	☐	☐	☒		
効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	大和川水質改善啓発事業との合同開催により、国土交通省や大阪府から啓発資材の提供や民間企業との協賛により、最小限の事業費で実施している。	
	受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒		
	人員を削減する余地がない	☒	☐	☐		
	事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐		
	簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐		
	市の他事業と重複していない	☒	☐	☐		
	民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐		
有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	美化意識の向上が図れる。また、本市のみならず上流域を含む一斉清掃を行うことにより、石川全流域の美化と流域市民が連帯した河川愛護の醸成につながる。	
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐		
	成果を向上させる余地がない	☒	☐	☐		
	市民の視点にたつてサービスが提供されている	☒	☐	☐		
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☐	☒	毎年、市民約2,500名、職員約200名程度の参加により清掃している。	
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☐	☐	☒		
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☐	☐	☒		
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐		
達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	ごみ回収量からみると、年を追って綺麗になっている。	
	成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐		
	成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐		

担当 部局 評価	総合評価
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了
	評価の理由
	河川愛護の気運も高まり、ゴミの投棄も少なくなってきた。
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)
	市民の参加で河川に対する関心を持ってもらえるように進めていく。